

令和6年能登半島地震 町長被災地訪問

熊本地震の経験・教訓を伝える

西村町長は、5月7日、8日の2日間にわたり、令和6年能登半島地震の被災地である石川県輪島市、珠洲市、七尾市、能登町、穴水町、中能登町、志賀町の7市町を訪問しました。



輪島市の被害状況／割れた地面と倒壊した建物の数々。いまだ震災の爪痕が生々しく残る



町長は被災自治体の首長や担当職員と意見交換を行い、現状の説明を受けるとともに、平成28年熊本地震から得た経験・教訓を共有しました。各自自治体の状況は異なりますが、特に輪島市や珠洲市では、いまだ断水が続く地域が存在し、平地が少ないために災害ごみ置き場や応急仮設住宅などの用地確保が困難であるなど、依然として厳しい状況にあることを改めて確認しました。

町長は、災害公営住宅の需要調査の早期実施や、応急仮設住宅入居者に対する「支え合いセンター」の設置など、住民を支える仕組みづくりの重要性を説明。さらに、今後本格化する復興計画の策定について、益城町は計21回の住民説明会を開催し、住民の意見を丁寧に取り入れることで、計画だけでなく、その後の町の取り組みや、国・県への要望に反映できたという経験を伝えました。

能登半島の復旧は困難を極め、多くの時間や物的資源、人的支援を必要とします。

益城町は、1月から役場職員を被災自治体への支援のために派遣しました。志賀町へ災害廃棄物処理支援として2人、熊本県保健師等チームの一員として1人、能登町へ公費解体業務支援として1人派遣。輪島市へは熊本県対口支援チームの一員として、これまで15人派遣し、被害認定調査業務に当たりました。これからも、被災者や自治体職員の皆さまに心を寄せ、できる限りの支援を継続していきます。



派遣職員の活動／平成28年熊本地震の経験を生かし、被害認定調査業務などに当たる熊本県対口支援チーム

能登半島被災地を訪問して



穴水町 吉村光輝町長と意見交換

西村町長 倒壊した家屋を見て、8年前の記憶がよみがえりました。主要道路網の寸断が物資供給と復旧作業に大きな影響を及ぼしています。どの首長の顔にも疲労の色がにじんでおり、体調管理の重要性を強調しました。これから新たな局面が次々と訪れ、多くの決断が求められます。その中で、住民の生活再建を最優先に考え、最後まで寄り添い、共に立ち向かう職員も守る、そうすれば必ず復興は進むと首長たちに伝えました。

町では、令和6年能登半島地震の被災地でのボランティア活動の応援事業を行っています。詳しくは町ホームページをご覧ください。

福祉課 地域福祉係
234・6113

